

第51回関東中学校ハンドボール大会 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ガイドライン

選手・チーム役員・応援および保護者配付用

本ガイドラインは、日本スポーツ協会が作成した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」及び(公財)日本ハンドボール協会が作成した全大会開催のガイドライン、日本中学校体育連盟が作成した「全国中学校体育大会実施上の COVID-19 感染拡大予防ガイドライン[第 5 版]」、群馬県中学校体育連盟が作成した「新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」に基づき、現段階で得られている知見等によって作成しています。

本ガイドラインは第 51 回関東中学校ハンドボール大会にあたって作成されております。参加チームには、発熱の有無を含めた症状の確認と有症状者への適切な対応を強く要望します。本ガイドラインを遵守して、大会に参加・行動をすること。また大会運営に協力をお願いします。また、今後、感染の状況によって、見直すことがありますのでご注意ください。

2. 大会開催時の感染防止策について

1) 全般的な事項

- ① 大会に参加する全ての者(選手・役員・大会関係者等会場内に入る者)は、競技中以外はマスクを着用する。

2) 大会参加時の申し合せ事項

- ① 大会参加校は学校長の参加許可書(大会申込書)、並びに大会に参加する生徒とその保護者が、事前に本ガイドラインをもとに感染症対策への同意を得ていることを同意書にて確認する。
- ② 「大会参加同意書(様式1)」に必要事項の記載と保護者の押印をして、大会受付にて提出する。
・感染の不安から参加を希望しない選手については、無理に参加させない。このことについては、すべての指導者に対し周知する。
- ③ 選手が以下の事項に該当する場合は、必ず医療機関で受診を行い、医師の判断に従う。大会参加の有無を確認すること。(大会当日に書面で確認を行う)
ア 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ④ 大会前に 37.5℃以上の発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常、消化器症状(食欲不振、下痢など)や鼻汁(アレルギー性鼻炎の方では、ふだんと違う鼻汁感覚)などの症状があった場合には陽性者と判断されているか否かに関わらず次の A.および B.の両方の条件または、C の条件を満たしている場合のみ大会への参加が可能
A.感染を疑う症状の発症後に 8 日以上経過している(発症日を第 0 日として第 8 日目以降である)
B.解熱剤等の薬剤を服用していない状態で、3 日間症状が全くない(解熱・症状消失日を第 0 日として第 3 日目以降である)
C.薬剤を服用しない状態で感染疑い症状が消失し、COVID-19 の感染のリスクが低いことを示す医師の診断書がある場合。(この場合も、その状態を示すため PCR 検査受検を推奨します)
- ⑤ 大会前に陽性者と判定された者で無症状病原体保有者については、検査陽性日を第 0 日として第 8 日目以降は大会に参加できる。

- ⑥ 陽性となった者と濃厚接触者であると保健所から指定された者(同一世帯内での感染者発生の場合も含む)については、当該感染者の発症日を 0 日として 7 日間(8 日目解除)とするが、4 日目及び 5 日目に抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は、5 日目から解除を可能とする。よって、それまでは大会に参加できない。チーム内で陽性者が出た時点で、大会までに濃厚接触者の判定が出ない場合においては抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は参加できる。
- ⑦ チーム内に COVID-19 患者が確認された時には所轄の保健所の指示確認を必ず受けてください。またその際には大会に参加する前にチーム内に濃厚接触者とされる者がいるかどうかを必ず確認してください。濃厚接触者がいる場合には前項の規定にしたがってください。チーム内に患者が発生しても保健所の確認の結果濃厚接触者ではないと判断された場合にはその者は参加可能です。
- ⑧ マスクは不織布マスクを持参すること(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をしている際には必ずマスクを着用すること)
- ⑨ こまめな手洗い、アルコール消毒液等による手指消毒を実施すること
- ⑩ 他の参加者、運営スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること
- ⑪ 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
- ⑫ 感染防止のために主催者(本部)が決めたその他の措置の遵守、主催者(本部)の指示に従うこと
- ⑬ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触の有無等について報告すること
- ⑬ 観客は関係者に制限を行った上で開催する。

・チーム関係者として帯同できる者

選手 15 名・役員 4 名・トレーナ 1 名を含め最大 20 名までとする。

・応援者として会場で観戦ができる者

登録メンバー外の生徒・選手の家族等を含め 1 チーム最大 30 名までとする。

3) 競技上の留意点(チーム、選手・選手役員、トレーナ、競技担当者)

- ① 十分な距離の確保
 - ア 運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること
 - イ 競技中以外でマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること(感染予防の観点からは、少なくとも2mの距離を空けることが適当である。)
 - ウ 選手以外の役員等はマスクを着用すること
- ② 身体接触を伴う競技特性を理解し、ハーフタイムや競技終了後に洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること
- ③ 運動中に、唾や痰をはくことは行わないこと
- ④ タオルの共用はしないこと
- ⑤ スクイズボトル等の飲料の回し飲みはしないこと
- ⑥ ロッカー(更衣)室や選手参集・待機所、コーチングエリアなどでは、運営者の指示等に従い、「3 密(密閉・密集・密接)」を回避する行動をとる。また、不要な会話・接触は控えること
- ⑦ ウォームアップを行う場合は、主催者(運営者)の指示等に従い、「3 密」を回避する行動をとる。
- ⑧ 競技中について以下の項目を厳守すること
 - ・ 試合終了後のハイタッチや握手等は控える。
 - ・ 円陣を行う際の声出しは、可能な限り選手同士の間隔を取り、最短時間で済ませる。
 - ・ 競技中の選手間のコミュニケーションのための声掛け、発声については妨げないが、プレー中断時などは、相手との距離や飛沫を考慮し、一定の距離を保つことや、向き合わないなどの工夫をする。
 - ・ 手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については消毒を行う。

- ・ 交代選手等が控える場所では、可能な限り、マスクを着用するとともに、選手らの間隔を取り、接触を避ける。なお、競技特性上、選手交代が目まぐるしく行われるので、交代選手にとっては、その限りではない。
- ・ 監督(指導者)からの指示などの際は、選手との距離(できるだけ 2m、最低 1m)を意識する。また、監督、コーチなどチーム役員はマスクを着用しなければならない。
- ・ ハーフタイムや競技終了後に、ロッカー(更衣)室等に引き上げる場合は、動線が混雑しないよう努める。

4) 選手(生徒)が遵守すべき事項

- ① 選手が以下の事項に該当する場合は、必ず医療機関で受診を行い、医師の判断に従う。大会参加の有無を確認すること。(大会当日に書面で確認を行う)
 - ア 体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② 不織布マスクを持参すること
(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際には マスクを着用すること)
 - ・ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること
 - ・ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること
 - ・ 大会中に大きな声で会話、応援等をしないこと
 - ・ 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと
 - ・ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること
 - ・ 大会の前後のミーティングにおいても、三つの密を避けること
- ③ 上記事項の遵守ができないまたは再三の注意勧告に従わない場合、提出書類等の内容に隠蔽・虚偽が発覚した場合には、当該チームに対して大会への参加及び試合への出場を禁止する。

5) 選手又はチーム役員等・顧問(関係指導者)の感染が判明した場合の対応

- ① 大会前
 - ア 感染が判明した当該選手、役員、濃厚接触者と特定された者の出場は認めない。しかし、ガイドライン2)④～⑥を満たせばこの限りではない。
 - イ 代表者会議までの選手・役員の変更を認める。
- ② 大会期間中
 - ア 大会に参加する全ての者(選手・役員等会場内に入る者)は、必ず当日の朝検温を行い、また会場受付でも検温を行う。当日、受付時に発熱等の症状があるものがいた場合、当該選手、役員は、入場、大会参加はさせず、医療機関へ受診を勧める。その場合、選手・役員の変更は行わない。
 - イ 体調不良者に該当する選手や役員が生じた場合は症状等の把握を本部で協議し、大会への出場の有無を決定する。
 - ウ 対戦チームに陽性者の疑いや陽性者が出た場合や対戦済みの相手(敗退したチーム)に感染疑いが発覚した場合、次戦がある当該チームに対して棄権を勧告できる。
 - エ 試合の成立・不成立

陽性者、濃厚接触者、体調不良者の判明により辞退しなければならなくなった場合、原則として試合は対戦チームを不戦勝(10-0)とする。

オ 大会中止に至る状況に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある。

政府による緊急事態宣言が再発令された開催地自治体ならびに近隣都県で感染症が拡大し、開催地県へ県外からの往来が拒否された場合

カ 出場チームに感染疑いが生じ、安全性の確認が間に合わない場合には、出場辞退を勧告する。または参加資格を取り消す。

③ 大会後

ア 感染者の所属する学校や行政機関の指示に従うこと

イ 本実行委員会は、速やかに報告書を作成し、感染者が参加した大会当日に会場内にいた全ての者に連絡をすること

④ チーム内に感染者が出た場合はそれ以上に集団感染(クラスター5人以上)・感染拡大を起こさないことや誹謗中傷を絶対生み出してはならない。ハンドボール関係者全員で守ることや共通認識を持つことを心がける。

6) 審判員、運営スタッフなどの行動管理

① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる(当日に書面で確認を行う)。

・体調がよくない場合(例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)

・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等の渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

② 不織布マスクを持参すること(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること)

③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること

④ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上、最低1m)を確保すること(障がい者の誘導や介助を行う場合を除く)

⑤ 試合中にベンチでも選手関係者席においても、大きな声で会話、応援等をしないこと

⑥ イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること

⑦ 大会中のレフェリーミーティングは書面またはメールなどにより情報共有する。更衣室内では15分以上にならないよう留意すること

⑧ レフェリーについては以下の注意をすること

・控え室は密を避けるため、当該試合と次の試合の2ペアのみが使用し、他のレフェリーは競技会場内の指定された席で待機する。

・選手、チーム役員・競技役員との握手やハイタッチ等を行わない。エアタッチや会釈で済ませる。

・通信機器等を使い回すときは、アルコール消毒液等により消毒する。

⑨ テーブル役員については以下の注意をすること

・必要最小限の人員で対応。(MO、TD2、SK、TKの5名)

・握手等はレフェリーと同様行わない。

・筆記用具等は、個人のもので持参するが、用意されたものを使用する場合は必ず使用後消毒を行うこと。テクニカルオフィシャルはストップウォッチ、ホイッスルも持参したものを使用。テーブルの笛は、電子ホイッスル、ホーンが望ましい。

・テーブルに置く機材(筆記用具なども含む)は試合ごとに消毒すること

⑩ 館内では、発行されたIDカードを、常に身につけておくこと